

とっても盛りだくさんで楽しかったです。常葉学園の雰囲気もいい感じでした。る・く・るも楽しかったです。修学旅行で行かせたいですね。 (SK)

土団子に込めた思いを、小田切先生から感じ取ることができて感激だった。学生さんの熱気に教師っていいなあってしみじみ思えました。そして何より、人をもてなすとはどういうことかということをお教えられました。豊田市で土団子を広めたいと強く決心しました。

る・く・るでは、海野さんが私用からかけつけてくれたときには感動した。改めて、ショーの達人としてスーパーな人なのではなく、人として尊敬できる人でした。実験道具への思い、工夫することの大切さを学びました。また、望月さん・萩原さんのプロ意識には感心しました。お二人の熱い視線に豊田も負けてられないなあと思いました。(HO)

とにかくとても面白かったです。土団子を作るという単純な作業であるのにのめりこんで活動を行うことが出来ました。あれだけきれいな土団子を見本を見せて頂いたことにより、ますますやる気になり、絶対自分はいくら以上の輝く団子を作ってやろうという気になりました。粘土もお土産に頂け、必ず学校で子供たちにやらせてあげようと思いました。自分の作った土団子を見せ「これは土団子なんだよ」と言った時の子供の反応がとても楽しみです。(TS)

常葉学園の小田切先生はじめ、学生の対応が丁寧でありがたかったです。土団子を初めて作りましたが、ひかってくるにつれて気持ちが高まり、蛍光灯がいくつも映ったときはうれしかったです。泥団子と違い、それほど汚れないので、授業でも扱いやすい教材です。粘土も頂きましたので、選択理科で早速やってみたいです。

土団子の後にあった学生の提案も参考になりました。ルミノール反応は見た目にもきれいで、化学エネルギーで紹介することがありますが、あの方法だと自分たちでつくることもできて最も身近に感じそうです。(TH)

とても丁寧に、細かく教えていただけてよかった。材料についても、大量に購入できるようなので、先生たちで情報交換を行って、一緒に購入するとよいと思った。

(MA)

とても満足のいく研修(?)でした。早速、スーパー土団子を来週中に授業で扱おうと思っています。

る・く・るも、あのような機会があったからこそ行けた場所です。本当に勉強になりました。シャボン玉ショーは夏休みの研究テーマにしようかと思います。

(YS)

スーパー土団子と聞いて、小さい頃につくっていた泥団子を思い出して大変懐かしく、今回の自主研に参加させていただきました。しかし、今回の自主研で作るのは泥団子ではなく土団子ということで、何が違うのだろう？と疑問に思っていました。粘土を使ったスーパー土団子は、見せていただいたものは光り輝いておりどうしたらこんなに光る団子を作れるのか不思議でした。小さい頃、どれだけ大きくつくれるか競っていたこととは少し発展し、光らせるために愛情をこめて磨き上げるという作業がとても楽しかったです。磨けば磨くほど光ってゆく土団子を見ると楽しくてしょうがなかったです。週明けに生徒に自慢げに見せたところ、やはり土団子とは思わなかったらしく、土なんだよと伝えると、「えええ！」という歓声が教室に響き渡りました。

土団子だけではなく、今すぐ使える実験教具なども紹介していただき、とても参考になりました。蛍のルミノール反応はぜひやってみようと思います。

小田切真先生はじめ、学生さんには大変多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。(MS)

自主研に初めて参加させていただきました。すごく楽しく参加・活動することができました。スーパー土団子も1級をとることが出来、次の日には「これは特級が取れるんじゃないか」と自画自賛しながら作りました。ぜひ、豊田市大会を開催し、全国大会へ出場したいと思います。(AH)

- ・スーパー土団子を夢中になって作ることが出来た。ぜひ、選択理科の教材として取り上げたい。
- ・認定証など工夫のある取り組みをされていることに感心した。
- ・常葉学園大学の学生の対応がさすがしく、礼儀正しかった。(NS)

常葉学園でのスーパー土団子、る・く・るでのシャボン玉、ともに“プロの技”を間近で互換をつかって味わうことが出来ました。食感ではなく触感をつかって！？大変楽しかったです。今度もよろしくお願いします。(MN)

昨日は、土団子の会、ありがとう。せっかくなので私のお宝映像を送りましょう。家では白い目で見られましたが、光沢を増してくる土団子を見ながら、常葉学園大学の温かな対応振りが重なり、しばしとても癒されるひと時を味わった際の作品です。仕上がった作品を見ると、やはり赤と黒の二種類が際立って魅力的ですね。でも、お土産にもらってきた粘土は黄と灰色ですが、今後の楽しみとしては十分に気持ちを豊かにしてくれています。静岡科学館る・く・るでのジャンボシャボン玉や



工作教室などを見ていたら、以前に行った瑞浪市の科学館を思い出しました。豊田は、ちよいと遅れているのかな？ (YT)

大学側の受け入れ体制、看板やスタッフの対応、マンツーマンの指導には感動を覚えました。

土団子は、技術的なノウハウというより制作中のコミュニケーションが大事になると思いました。参加する前は普通の土色のおにぎり大のものをイメージしていました。土があのような色で、あの程度までツヤが出るとは思っていませんでした。また、科学実験の小ネタも当館のサイエンスショーのネタとして参考になりました。田中先生（猿投台中）のお話にあったように「キャラクターを作る」ことも大事なことであると思いました。

る・く・るの見学では、海野さんの「プロのサイエンスショー」は、プロとしての自覚や教材開発の姿勢に、頭が下がる思いでした。ぜひ、豊田でもスーパー土団子は紹介していきたい活動だと強く感じました。 (SN)

最初に、土団子と聞いたときに、手のひらサイズ（おにぎりぐらい）で、水をつけながら、丸めていくものを想像しました。それは、どろ団子だ！ということを知っても、違いがわからず、当日を迎えました。そして、当日見てびっくり！「これが！スーパー土団子かあ！！！」と感動しました。

ただ、手のうえに乗せた1.5cmくらいの土のかたまりを、ころころころころしているだけなのに、それが本当に楽しくて、だんだんとツルツルとしてくる土団子に時間がたつのも忘れて、夢中になって活動させていただきました。できあがった土団子は、2級でした。次は、1級を取りたい！と、大人も夢中になってしまう土団子は、本当にすごいなあと思いました。月曜日で、教室でこどもたちに見せると！「すげ〜！」「かりかり梅みたい！」「食べれる？」「おれも作りたい！」と想像以上にいい反応を見せてくれました。ぜひ、保護者も巻き込んでの土団子作りができたらと思っています。

当日は、学生のみなさんによる実験（研究）もを見せていただき、子どもたちを楽しませる、子どもたちにわかりやすい教材をと研究をされている様子に、私も、子どもたちのためにできることを改めて考えなければいけないなあと感じました。

最後におみやげの土までいただき本当にありがとうございました。次は、子どもたちと一緒に子供に負けない、ぴかぴかの土団子を作ることができるようにがんばりたいと思います。

午後から立ち寄った、「る・く・る」もとっても楽しかったです。子供を連れていきたい！と感じました。一人で行っても、きっと一日中夢中になって遊んでしまうけれど……。しゃぼん玉も見せていただくことができ感動しました☆

(TT)



3. 5 mのものにチャレンジしてみたいと思います☆



こんな風にシャボン液をつけます☆



成功するといいますが・・・。
練習だと結構、成功するのですが・・・
お客さんを入れるとなかなかむずかしくて・・・。
せーの！！

すげ～！！
でけえ～！！
かっこいい！！

BY：つかもと



スーパー土団子は想像した以上に美しく、簡単に作れるものでした。子どもたちに科学の楽しさを伝えるものとして、最も適した条件のものだと思います。教えていただいた私たちは「簡単にできる…」と安易に言いますが、それを開発したり、発見したりする難しさも知っています。小田切先生の実践、実績に敬服します。

また、小田切先生にも、学生のみなさんにも「わざわざ遠くから来ていただいた」という気持ちがあったのでしょう。こちらとしては、願ひする立場なのですが、まるで立場が逆転したようでした。そのようなもてなす気持ちに恐縮し、感激しました。わたしたちもワークショップやものづくりフェスタで子どもたちと接するわけですが、このような姿勢を手本としたいですね。

(TS)